



特定非営利活動法人 女性技術士の会 ニュースレターvol.17



気候変動の影響か、10月に入っても真夏日が続いていましたが、ようやく朝晩は涼しくなり、雲の形や吹く風に秋の気配を感じるようになりました。

食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋... みなさまはどのような秋をお過ごしでしょうか。

本ニュースレターは、特定非営利活動法人女性技術士の会会員のみなさまへ、本法人の活動内容を中心にお知らせいたします。

第17号では、2013年8月～10月の活動報告、リレーエッセイ、運営報告、今後の活動予定などをお届けします。今回も楽しい記事が満載ですので、どうぞお楽しみください。

なお、ニュースレターではみなさまからの投稿記事を募集しますので、仕事のこと、趣味のことなど、お気軽に投稿してください。詳細は巻末のアドレスまでお問い合わせください。

CONTENTS

| | | |
|-----------------------|--|------|
| 活動報告 | | 2ページ |
| 2013/8/1 | ポートフォリオ「行動する女性技術士たち ー理系は楽しい・おもしろいー」Vol.2の発行 | 2ページ |
| 2013/8/9 | 女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～ | 3ページ |
| 2013/9/21 | 第19回技術サロン（WPETF活動への協力） | 3ページ |
| 2013/10/17 | 第7回日韓女性技術士交流会（速報） | 3ページ |
| リレーエッセイ | | 4ページ |
| 高木圭子さん | 『オタク』が技術者になる日を目指して | 4ページ |
| 技術サロン参加学生からの感想 | | 5ページ |
| NBさん | 「技術サロンに参加して」 | 5ページ |
| 運営報告 | | 6ページ |
| 今後の活動予定 | | 6ページ |
| 2013/11/9 | おもしろいまちづくりシンポジウム第6弾 （サイエンスアゴラ2013に参加） | 6ページ |
| 2013/11/12 | 第5回日中韓女性科学技術指導者フォーラム | 7ページ |
| 2013/12/21 | 第20回技術サロン（WPETF活動への協力） | 7ページ |
| 2014/10/23～25 | ICWES16（第16回国際女性技術者・科学者会議） | 7ページ |
| 2014/10/26 | 第8回日韓女性技術士交流会 | 7ページ |
| 技術士をめざして | | 8ページ |
| 川口友子さん | 「今につながる事々」 | 8ページ |

活動報告

📖 ポートフォリオ「行動する女性技術士たちー理系は楽しい・おもしろいー」Vol.2の発行

◆ 発行日：2013年8月1日（木）

◆ 活動主体：ポートフォリオ Vol.2 作成プロジェクトチームで編集委員会を編成（青木、犬走、角田、笹尾、佐藤、瀧澤、藤井、吉川）

◆ 経緯：Vol.1の発行（2009年9月）から約4年が経過し、本法人の新たな人材の紹介とともに内容の充実を図るため、Vol.2を発行した。

◆ 目的：高校生、理系で学ぶ女子大学生、理系の学部を持つ大学や高専の学生には理系の楽しさ・面白さを伝え、また、若き女性技術者には働き方・生き方の参考となるよう、技術系職域におけるロールモデルを紹介することを目的とした。

◆ 概要：本法人の26名の女性技術者が「私のワーキングキャリア」、「理系を目指した理由」、「技術者の喜び」、「ワークライフバランス」、「若き技術者達へ」などをテーマに、実体験を活き活きと紹介している。

Vol.1と比較して字数を減らし写真・図表等を多くし、読みやすい紙面構成を心掛けた。また、目次を工夫しキーワード検索ができるよう、イラスト付きの「読み方ガイド」を新たに設けた。

読者からは「ポイントが明確で感銘した。」、「活字等の状況も含めて見やすくなり、充実した印象を受けた。」との反響があり、今後も、本誌の広報活動に力を注いでいく。

◆ 編集委員の感想：編集作業の間、幾度となく想定外のアクシデントに見舞われたが、その度に編集委員一同結束し困難を乗り越え、無事、発行にこぎつけられたことに大きな喜びを覚えた。この活動に参加できたことは忘れられない思い出となった。



～ 目 次 ～

| No. | 部門 | タイトル |
|-----|------------|--|
| 1 | 建設 | 生涯、一コンクリート屋 |
| 2 | 建設 | 私の仕事と生活 |
| 3 | 建設 | ランドスケープの仕事が続けて |
| 4 | 建設 | 人と人・人と活動・活動と活動をつなぐ「黒子」の楽しみ |
| 5 | 建設 | 「造園設計」は楽しい！ |
| 6 | 建設 | 技術職としての都庁の魅力 |
| 7 | 建設 | 土木技術者から環境技術者へ |
| 8 | 建設 | 環境に関心を持ったきっかけ |
| 9 | 建設 | 仕事を楽しむ |
| 10 | 建設 | 私の仕事と生活 |
| 11 | 建設 | あまりにも平凡な土木屋人生 |
| 12 | 上下水道 | ～地球～ この美しい水の星の番人として |
| 13 | 上下水道 | 土壌浄化法で環境整備をする「私は水のお医者さん」 |
| 14 | 上下水道 | 長いようでもあり、短いようでもあり |
| 15 | 上下水道 | 明るく生き生きとした第2の人生へ |
| 16 | 上下水道 | 入社試験で3年は動めてくださいがなんと43年目 |
| 17 | 衛生工学 建設 | 循環型社会へのパスポート |
| 18 | 農業 | 私の職業は…ある時は建築家、ある時は造園家、そしてある時は農村環境整備技術屋 |
| 19 | 情報工学 | 文系人間のつもりでした |
| 20 | 情報工学 | 建築と情報システム |
| 21 | 応用理学 | 何となく理系のその後 |
| 22 | 応用理学 | 現在、ワーキングキャリア第△ステージ |
| 23 | 繊維 | デザインは地域を救う「遠州綿プロジェクト」 |
| 24 | 環境 | 公務員技術者からNPO法人設立へ |
| 25 | 環境 建設 | 私のワーキングキャリア |
| 26 | 電気電子 | 私の職業は…先生ときどきカウンセラー |

<ポートフォリオの読み方ガイド>

★自分の専門分野から読んでも良いし、テーマにそって先輩のキャリアを読んでも良いです。

・海外での仕事は？
⇒No.7, No.9

・開業・起業したい人は…
⇒No.1, No.2, No.25

・子育てと仕事の両立なら…
⇒No.8, No.18, No.20, No.21, No.22

・文系出身でも技術者になれる？
⇒No.4, No.13, No.19

・ハッピー リタイアメント組は…
⇒No.15, No.23, No.24

・一つの会社で長く働く…
⇒No.5, No.10, No.14, No.16, No.17

・学校の先生は…
⇒No.26

・転職しても大丈夫？
⇒No.3, No.12, No.20

・公務員は？
⇒No.6, No.11

女子中高生夏の学校 2013～科学・技術者のたまごたちへ～

- ◆ 開催日：2013年8月9日（金）13：00～17：00
- ◆ 場 所：（独） 国立女性教育会館
- ◆ 活動形態：協賛
- ◆ 主 催：（独） 国立女性教育会館
- ◆ 参加者：石田、犬走、岩熊、角田、笹尾、千木良、氷上、藤井、女子中高生 129 名、教職員・保護者 40 名
- ◆ 経 緯：本イベントは、（独）国立女性教育会館が、（独）科学技術振興機構の補助事業として毎年実施しており、本法人もポスター展示参加団体として、2009 年以降、継続して参加している。



- ◆ 目 的：女子中高生に理系の幅広い研究分野の魅力に触れてもらうと同時に、実際に企業や大学、研究機関等で働く科学者や技術者と交流することで、将来のキャリアイメージを掴んでもらうことを目的としている。
- ◆ 概 要：ポスター展示を通し、女子中高生には、技術系の資格・職業にはどのようなものがあるか、わかりやすく紹介した。保護者には、女性が技術系の職域で働くことへの不安・疑問を払拭してもらえよう努めた。教職員には、理系進学先の職域までも含めた進路指導の重要性を訴えた。また、本法人が 2013 年 8 月 1 日付けで発行したポートフォリオ集「行動する女性技術士たちー理系は楽しい・おもしろいー」Vol.2 の紹介も併せて行った。

第 19 回技術サロン（WPETF 活動への協力）

- ◆ 日 時：2013 年 9 月 21 日（土）13：30～16：00
- ◆ 場 所：（公社）日本技術士会 荳手第 2 ビル
- ◆ 活動形態：協力
- ◆ 主 催：（公社）日本技術士会 男女共同参画推進委員会
- ◆ 参加者：主催者；石田、岩熊、角田、小林、笹尾、千木良、原田、平塚、その他委員 6 名
ゲスト；中谷多哉子氏（筑波大学大学院ビジネス科学研究科准教授、技術士審議会臨時委員）
一般参加者；6 名（女子学生 3 名、社会人 3 名） ※アンダーライン付記は本法人会員
- ◆ 経 緯：WPETF の主な活動目的の一つである女性技術者のキャリア形成支援事業の一環として、JABEE 課程と技術士制度の説明及び先輩女性技術士との懇談を企画したもの。
- ◆ 目 的：技術者を目指す女子学生が、技術者としての自分の姿を思い描き、学校での勉学をもとに、充実したキャリアを積んでいけるよう、女性技術士と意見交換をする場を提供すること。
- ◆ 概 要：学生からの進路などについての悩みや、社会人からの職場環境に関する悩みなどについて、多方面からアドバイスがあり、活発な意見交換が行われた。



第 7 回日韓女性技術士交流会（速報）

- ◆ 日 時：2013 年 10 月 17 日（水）15：00～18：00
- ◆ 場 所：韓国京畿道水原市 IBIS Ambassador Suwon Hotel 会議室
- ◆ 活動形態：共催
- ◆ 主 催：韓国技術士会女性委員会
- ◆ 参加者：日本側；石田、木村了、千木良、中西、



平永、廣瀬（6名） 韓国側；女性技術士 15名

- ◆ 経緯：7年前より（公社）日本技術士会日韓技術士国際会議のイベントとして女性技術士シンポジウムを開催
- ◆ 目的：日韓両国の女性技術士の情報交換・スキル向上・親睦
- ◆ 概要：シンポジウム、食事会
大会テーマ「未来科学技術時代における技術士の役割」
韓国側発表「活動報告」李美蘭氏
「The energy saving technology in the present state」許誠云氏
日本側発表「活動報告」木村了
「未来科学技術時代における技術士の役割一つよくしなやかにー」石田佳子

リレーエッセイ

■ 高木圭子さん（環境部門、建設部門） 「『オタク』が技術者になる日を目指して」

初めまして、動植物調査を得意とする環境コンサルタントで自然環境保全の仕事をしている、高木と申します。本稿執筆の機会をいただき、お伝えしたいことはいろいろあるのですが、初めてですので、今回はひとりの技術者としての私の自己紹介をさせて頂ければと思います。

私の職場は昆虫、鳥類、植物など様々な生物の、よくいえば「専門家」、ありていにいえば「オタク」の集団です。私自身の専門は植物生態学で、社会人になったばかりの頃は、その目的を知らされることもなく、日々、植物調査に日本全国を飛び回っていました。そもそも、



出張と称して初めての土地へ赴くことも、地形図を頼りに日がな一日山野を歩き回ることも、宿で深夜まで植物の図鑑をめくることも好きだった私にはその日常に不満がなく、自分の仕事をぼんやりと「自然環境を守る仕事」と捉えてとくに疑いませんでした。ただ、「守る」というとなんとも恩着せがましい響きですが、慈善事業ではなく、自分たちが滅びないためにという認識がありました。月日は流れ、名古屋で立派な国際会議が開催されたこともあり、私たちの仕事の対象につけられた「生物多様性」というちょっとした名前も、だいぶ市民権を得てきました。

さて、キャリアが15年を超えた今では、私が調査に赴く機会はぐっと減りました。「オタク」集団での相対的な「オタク」度が足りなかったせいでしょうか、その代わりに、気がつけば電話とパソコンと資料の山が置かれた会社のデスクに張り付き、職場の若い衆がすすめる業務の工程や成果物のチェック、フォロー、営業、お金の勘定など、「オタク」がやりたがらない仕事を一手に引き受けるようになりました。そうして大好きな出張と調査をとりあげられてしまったせいもありますが、立場上否応なくというのもあり、少し俯瞰的な視点から自分たちの仕事をみるようになってきました。そうすると、生物の専門技術者であるはずの私たちが、いま危機に瀕している「生物多様性」を守ることからなんと遠いことか、と愕然とせざるをえません。

私たちは「生物多様性」をある程度評価できます。また、それを守ったり、もっとよくするためにできること、やるべきことを考えられます。やることに優先順位をつけたり、どう変化していくか予測するのも私たちの仕事です。「生物多様性」を守るという観点から、いろんな人たちに、いろんな局面でこうした検討をしてほしいのですが、多くの人は必要とっていないし、必要として

いる希有な人たちに出会えない現実もあります。なぜでしょう。

いろいろありますが、私たち技術者の問題としては、自分の技術を磨くことばかりに注力しすぎる点があると思います。技術者とオタクはほとんど同義といっているくらい似た属性をもっていますが、技術者の悪いところは自分が技術を持っていることそれ自体に価値があると思込みやすいところだと思います。技術は目的があって初めて生きるものですが、技術者にとっては技術自体が目的になりがちで、それではオタクと変わりありません。

そんなことを思って、最近では技術者としての「発信力」を課題に据えています。私たちのような技術者がいること、生物多様性が私たちの産業や文化、生活の基盤であること、それがいま危機に瀕していること、すぐにでもできることがあることを、業界の枠を超えていろんな立場の人たちと交流する中で、いろんなかたちで発信していきたいと思っています。本稿にお目通しいただけた皆さまとも交流の機会があることを楽しみにしています。

技術サロン参加学生からの感想

■ NB さん（福島工業高等専門学校 機械・電気システム工学専攻）「技術サロンに参加して」

今回初めて参加させて頂きましたが、正直学校の先生に技術サロンを紹介して頂くまでこのような説明会があることも技術士という資格があるということも知りませんでしたし、どのようなことをするのかとてもドキドキでした。しかし、説明の前に自己紹介やアイスブレイクという手法を使って参加者を知るということを行い、少しですが皆さんと打ち解けることができたので緊張も徐々に解けていきました。また、技術士についてや資格・試験の説明、皆さんの体験談などを聞いたりして、技術士というものがどういうものなのかや資格を取るメリットなど様々なことがわかり、とても関心を持ちました。さらに、女性技術士が少ないということを知り、大それた考えではありませんがその数少ない女性技術士になり、工業系の女性が働きかつ活躍できる場を作ることができたら色々な面で良くなるのではないかと思います。そこで将来技術士の資格を取ることを前向きに考えようかなという思いが少し湧いてきました。今回詳しく説明して頂いたのですが、もう一度自分で技術士試験について調べてみようと思います。

技術サロンでは、技術士の資格についてだけでなく悩みや質問についての意見交換の時間もあったので、様々な意見や体験を聞いて参考にしたいと思い、私は今後の進路についての相談をさせて頂きました。皆さんとても熱心に丁寧に相談を聞いたり意見を述べてくださったりしたので、今までとは違った考え方や見方に気付くことができました。また、最近自分なりに勉強をし直したいと思っていたのですが、今回を機にさらにその思いが強くなりました。まだ時間はあるので、就職・進学のどちらになっても後悔しないよう今から実践をし、色々な面からよく考えて決めていきたいと思っています。

また意見交換の時間では、参加者全員の悩みや質問についての意見交換を行っていたのですが、学生はもちろん新入社員を含め社会人の方も何名かいらっしゃっていて、実際の現場の生の声を聞くことができました。職場での悩みや家庭と仕事の両立など、とても興味深い話を聞くことができましたし、私もいずれ就職して直面するかもしれない悩みもあったので、とても参考になりました。

最後に、2時間半という短い時間ではありましたが、とても貴重な時間を過ごすことができました。ありがとうございました。この経験を活かして今後役に立ていきたいと思っておりますし、最初の方にも述べたように技術士試験の受験についても考えていきたいと思っております。

運営報告

| 主体 | 日時 | 議題 |
|------|-----------------------|---|
| 理事会 | 8月3日(土) 10:00~12:00 | 各部会活動報告及び部会固有活動の確認、現行プロジェクト等今期活動の確認、理事の増員の検討、受託可能性業務(協働)の経過確認 |
| 企画部会 | 8月22日(木) 19:00~21:00 | おもしろいまちづくりシンポジウム第6弾について、他 |
| 広報部会 | 10月9日(水) 19:00~21:00 | 理事会協議内容の伝達、ニュースレター(vol.17、vol.18)、広報部会HP担当者、今後の本法人主催事業への協力、他 |
| | 10月25日(金) 19:00~21:00 | ニュースレターVol.17 査読会 |
| 総務部会 | — | 会計および入退会、メールアドレス等変更に関する事務 各種印刷物の印刷および発送の手配 |
| 国際部会 | 9月25日(水) 19:00~21:00 | 日中韓女性科学技術指導者フォーラム準備、ICWES16について |
| | 10月10日(木) 18:30~20:00 | (INWES-Japan 運営委員会) 日中韓女性科学技術指導者フォーラムについて、日本女性科学者の会参加について |

今後の活動予定

■ おもしろいまちづくりシンポジウム第6弾(サイエンスアゴラ2013に参加)

◆ 日時: 2013年11月9日(土) 10:30~12:00 (10:00開場)

◆ 場所: お台場 サイエンスアゴラ2013 会場

産業技術総合研究所臨海副都心センター別館 11F 会議室1

(新交通ゆりかもめ 「テレコムセンター駅」下車徒歩約5分)

◆ テーマ: 生きもののいるまちづくり(生物多様性は必要か?)

◆ 協賛: INWES-Japan

◆ 概要: 講演会及びパネルディスカッション

○ 講演者: 東京農工大学名誉教授 亀山章氏

恵泉女学園大学准教授、NPO法人日本園芸療法研修会代表 澤田みどり氏

○ コーディネーター: NPO地域自然情報ネットワーク副理事長 井本郁子氏(本法人会員)

私たちの暮らしは、多様な生物が関わりあう生態系からの恵みによって支えられています。しかし近年、まちづくりをはじめ、様々な人間活動による影響が主な要因で、たくさんの生きものたちが危機に瀕しています。まちづくりにおいて、生物多様性がなぜ必要なのか考えてみませんか。

今回は講演者として都市環境における生きものの専門家の東京農工大学名誉教授亀山章氏と園芸療法の普及を進めているNPO法人日本園芸療法研修会代表澤田みどり氏をお招きします。講演後、パネルディスカッションを行います。

みなさまの参加をお待ちしています。

◆ 定員: 80名

◆ 申込先: パソコン・携帯用フォームURL

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/35152c74264303>

◆ 連絡先: 藤井由美 info@pej-lady.org



第 5 回日中韓女性科学技術指導者フォーラム

- ◆ 日 時：2013 年 11 月 12 日（火）
- ◆ 場 所：日本大学会館 2F 大講堂（市谷駅徒歩 2 分）
- ◆ テーマ：科学技術分野における女性研究者のリーダーシップ育成教育
- ◆ 主 催：日本大学、INWES-Japan
- ◆ 概 要：日中韓女性科学技術指導者フォーラムメインシンポジウム
 - INWES-Japan のセッション（本法人から報告あり）
 - 若手科学技術者のポスターセッション
 - バンケット（於：小石川後樂園「涵徳亭」、参加費 5000 円予定）

※11 日（月）に文科省女性研究者研究活動支援事業合同シンポジウム、13 日（水）にサテライト会議が開催される予定です。

⇒ 下記 URL 参照

http://www.nihon-u.ac.jp/research/project/chairman_grant/news/5-jck-wlf.html

- ◆ 連絡先：木村了 info@pej-lady.org

第 20 回技術サロン（WPETF 活動への協力）

- ◆ 日 時：2013 年 12 月 21 日（土）13：30～16：00
- ◆ 場 所：（公社）日本技術士会 葺手第 2 ビル
- ◆ 対 象：技術者及び技術士を目指す女子学生・女性
- ◆ 概 要：「技術士」資格に関する説明、意見交換会
- ◆ 定 員：15 名
- ◆ 参加費：無料
- ◆ 申込先：廣瀬由紀 wpetf@pej-lady.org

ICWES16（第 16 回国際女性技術者・科学者会議）

3 年に 1 度の ICWES が来年開催されます（本法人は第 11 回から参加）。今回はアメリカの The Society of Women Engineers（SWE）との共催で大規模な会議となります。

- ◆ 日 時：2014 年 10 月 23 日（木）～25 日（土）
- ◆ 場 所：アメリカ、ロサンゼルス
- ◆ テーマ：1 工学、科学技術のさまざまな分野で技術革新、研究成果
 - 2 気候変動、水管理、再生可能エネルギーと持続可能性を含む、現代の問題に対する新しいアイデアや解決策
 - 3 女性のエンジニアや科学者の誘致、開発、促進、そして保持
- ◆ 申込期限：2013 年 12 月 31 日（火）

⇒ 下記 URL 参照

http://we14.swe.org/content/documents/ICWES_PresentationApplication_Presentation_Guidelines_SpeakerKit_WE14_091613.pdf

第 8 回日韓女性技術士交流会

- ◆ 日 時：2014 年 10 月 26 日（日）
- ◆ 場 所：愛媛県松山市

技術士をめざして

■ 川口友子さん（農業部門） 「今につながる事々」

はじめまして、川口友子と申します。このたびは、貴重な寄稿の機会をいただき、ありがとうございます。ここでは、自己紹介と技術士を目指すに至った理由について、書いてみたいと思います。

私の出身は神奈川県横浜市で、周りに農地はほとんどないような環境で育ちました。そんな私がなぜ農業部門での技術士の資格習得を目指すようになったかという、大学の生物環境工学科（旧農業工学科）に進学し、建築・農村計画学研究室に入室したことが始まりでした。

もともと私は、散歩や旅行に出るとは、地域ごとの雰囲気を楽しむことが好きでした。学生時代はちょうどテレビ番組の影響で“ヒッチハイク”や“バックパッカー”が流行っていて、私もアルバイトをしてお金を貯めては旅に出て、様々な風景や街並みを眺めながら歩き回っていました。

そのような頃、私は研究室のゼミで、地域特有の風景や空間は、人びとの生活や文化など地域の様々な要素から独自に構成されてきたのだということ、また、それらの風景や空間を維持保全していくためには、社会的・経済的な計画が必要であり、逆に、計画を策定するには、風景や空間を構成する生活や文化を考慮することが非常に重要である、ということを知りました。これをきっかけに、それまで旅先で漠然と眺めていた風景の見方が変わり、人と風景、とくに農村地域の風景との関わり方に興味を抱くようになりました。そして、研究として取り組むようにまでなったのです。

その後、卒業研究から大学院までは、奈良県明日香村を対象に研究を続けました。村の方のご自宅に下宿し、半年間のフィールドワークを行うなど、現地の人びとの日常生活に近い視点で調査を実施することができました。当時出会った方々とは、今も連絡を取り合っています。

大学院修了後は、関西の大学で博士研究員として勤務し、引き続き農村計画に係る研究に携わりました。住民参加や組織づくり等、今の仕事の基礎になることを学びました。

現在は、農村振興を推進する一般財団法人で、農山漁村の活動支援や、都市と農村の交流を通じた集落コミュニティの維持・再生に取り組んでいます。また、福島県において東日本大震災の被災者支援活動も行っています。これらの実務では、これまで行ってきた研究に加え、幅広い知識と経験が求められます。そして私は、自分の見識を深め、周囲からも認められる仕事をしたいという思いのもと、技術士を目指すようになりました。

技術士という資格については、学生時代にお世話になった地域コンサルタントの方が目指していたため知っていました。同時に、資格習得は非常に難しい、ということも知っていたため、自分には無理だろうとぼんやりとっていました。しかしながら、職場のOBの技術士の方から、技術士の資格は非常に重要であること、今後の業務には不可欠になることなどのお話を聞き、今後の自分の仕事と技術士の資格を結びつけて考えるようになりました。そして、第一次試験に合格した際、自分が思っていた以上に周囲がとても喜んでくれたため、単純ではありますが、気持ちが引き締められました。この時初めて、自分も技術士として仕事がしたいと思うようになったかもしれません。

先日、技術サロンに参加し、初めて女性の技術士の方々と話す機会をいただきました。漠然と悩んでいたことなどを相談でき、とても良い時間を過ごすことができました。これからは悩みは尽きないとは思いますが、楽しみながら、技術士に向けた勉強ができればいいなと考えています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



ニュースレターについてのご意見・ご感想はこちらまで：info@pej-lady.org

2013年第3号 通巻第17号 発行責任者：特定非営利活動法人 女性技術士の会 理事長 木村了